

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人の理念を踏まえ、当GHの歩むべき方向性として、「地域と共に」と「その人らしく」を柱に据えている。それを具体的に言葉に現したものが『美山の地で私らしく暮らします』という理念である。利用者の方に毛筆で書いていただき、玄関に掲げている。美山の歴史や文化の中で、「らしく送る人生」の実現を切望している。	○	運営推進会議の中でも理念や方針のことは常に話題にしており、地区の常会の折にも議題として住民の方に伝えていただいている。今後もますます、地域と共に歩み、「おらが町のグループホーム」になりたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念も方針も職員の目につく所に置いてある。日々のケアの中で、管理者を含め職員同士は常に理念を話し、それを各利用者ごとに、どのように具体化したら良いかを熟考し、実践していつている。理念の実践を求めつつも、現実とのギャップに悩むこともある。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地区の常会に職員が出席して、この地で暮らしていくことの意義を話したり、家族や利用者との交流会を行ったり、買物時などに商店の人とグループホームの方針を平易な言葉で話したりしている。また、家族にも地域の中で暮らしていくことの大切さや意義を伝えている。今年度の交流会で、職員全員がもんぺを着用したところ、地域の方や職員当人にも好評であったので、イベント時のユニホームにしても良いという意見もある。	○	いろいろな機会を捉えて、地域や家族に理念を伝えていつている。が、まだまだ地域の方には馴染みが薄いのではないかと思いつているし、すべての家族に対して、十分理解を得られた暮らしになつているか不明である。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めつている</p>	管理者や職員は、買物や外出・散歩等で近所の人に出会えば気軽に挨拶し、世間話等している。	○	建物の立地条件上、近所の方々が気軽に立ち寄れるということにはなつていない。季節の良い時、100m下の住宅の幼児が家族と散歩に訪れるくらいである。どうしても車が必要な場所ではあるが、面会以外の方々にも気軽に立ち寄つていただけるように努めつていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めつている</p>	地区の常会に出たり、地区の八朔という行事や敬老会にも参加している。町内会に属しているため、当番の時は、職員が利用者と共に地域の草刈や缶拾い等の日役(ひやく)にも出ている。また、年に一度ではあるが、美山ふるさと祭りには、利用者の手作りの作品を販売したり、会場を訪れて秋祭りの雰囲気を楽しんでいる。地域の方々もボランティア活動に来てくださっている。年に一度、センター全体でボランティア感謝の集いを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の介護の相談に応じている。今年度は、管理者が市の介護予防講座の講師として旧町内で3回介護予防の話をしている。	○	事業所として、また職員として現状の力に応じて何か地域に役立つことがないか、十分論議できていないため、今後の課題である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず、管理者が職員に、「介護保険サービス事業所の質について」や「情報の公表」「第三者評価」、グループホームの「外部評価」「自己評価」のシステムや意義を説明した上で自己評価に取り組んだ。昨年度の外部評価の課題は、ほぼ改善出来てきている。自己評価をする中で、「この自己評価の項目を全部クリアすれば、すばらしいグループホームになる」という声はあるので、外部評価の一連の意義を理解し、意欲的に取り組む姿勢はある。	○	昨年度の改善点である「緊急時対応の全員の周知」という項目は、そのための研修会の日程調整することが出来ず、積み残しとなっている。評価項目や結果を意識して、日々のケアに取り組んでいる。特にリスク管理の点は、要改善点としてのみならず、重要課題であるので、引き続き、年度末までには消防署の協力で実現したいと思っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、「地域との窓口」或いは「地域との架け橋」と捉え、忌憚のない意見交換の場となっている。そこで出た意見や要望から、10月に実施した「地域・家族・利用者・職員との交流会、収穫祭、ボランティア活動」にと拡大発展していったことは、大きな成果である。理念はもとより、今年度の方針や日々の様子・行事等の報告、外部評価受診の意義、外部評価の結果報告等を小まめに行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、支所の担当者が毎回出席してくださっている。かねてより市の方へ、介護相談員の要請をしていたところ、申請後に応じる態勢が整えば・・ということで、近々実施の予定となっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ、該当者不在のため、あまり意識して、深く学習したり、権利擁護事業等に取り組んでいない。一部職員は以前に学んだことはあっても、現在の職員同士で話し合っていない。	○	今後必要になるならないに係わらず、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をつくりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が、高齢者虐待防止の研修に参加し、その内容を他の職員に報告している。ケアの場で虐待とは何かを職員は、日常的に話し合い、予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際は、ゆっくりと時間をかけ、書類の説明だけでなく、グループホームでの新たな暮らしの中で考えられる不安等に対し、十分な説明を行なって、理解や納得を得るように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市の介護相談員の要請を行なっているところで、介護相談員の日程調整後に派遣開始になる予定である。介護相談員と利用者との良好な関係の中で、利用者の意見や不満、苦情をしっかりと受け取り、サービスの質の向上に反映させていきたい。現在、利用者は自分の意見を言っておられると思うが、今後もますますの自己決定を望みたい。</p>	<p>○</p> <p>外部の介護相談員のみならず、9人の利用者による「自治会」或いは話し合いによって、決まりごとや暮らし方を考え、そこで意見等々を言っていたいただいて、自分達の住まい方を自分達で決めていっていただけたらいいようにしたいと思っている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月一度、家族等に金銭の収支報告と近況報告を書面にて行なっている。その際、写真も同封し、何の場面かを説明書きして1ヶ月間の生活の様子を知っていただけるようにしている。また、面会時には、ゆっくりお茶を飲みながら近況をお伝えするようにしている。職員の異動や退職については、可能な限り、家族に説明し(文書でも)、理解を得るようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を明記した文書を家族に配布すると共に、玄関にも明記してその文書を見られるようにしている。意見箱も設置している。又、年2回ではあるが、懇親会を行なう中で、意見等を言っていたいただける機会にしている。今後は市の介護相談員の派遣により、家族への事前説明をもって、大いに活用していただき、出た意見等を運営に反映していきたい。</p>	<p>○</p> <p>家族の方々が、職員に全く遠慮しないで、意見や不満等を述べられるかどうか懸念している。信頼関係は築けていっていると思うが、もっともっと家族といろいろなことを話し、大切な身内の「終の棲家」として、ここが良質な住まいになれるような意見をいただきたいと思っている。そのための機会も設けたいと考えている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例で、グループホーム職員会議を管理者同席で3時間行ない、そこで運営に関する意見を聞いている。また、その職員会議の内容を法人の管理委員会に報告・相談できるようにして、健全な運営を目指している。不定期ではあるが、職員のヒアリングを行っており、そこでの意見や提案があれば運営に反映していくようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の身体状況や通院等により、職員は常に柔軟な勤務体制をとっている。前日でも必要があれば勤務時間の変更を行なっている。この時間帯にこれだけの職員配置が望ましいと判断した場合は、管理者と相談の上、勤務の調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設後2年間に2名の退職、1名の定年退職、1名の法人内異動があった。2名の退職者については、慰留したが家庭の事情もあり、残念だが退職に至った。利用者への説明は、すべき人には説明して納得を得ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、研修制度が整っており、新人研修から段階を追って受講する仕組みになっている。その研修を受けると共に、職場内で学べる雰囲気をつくり、スーパーバイズできるようにしている。今年度、2年目研修受講の職員が5名いるが、2日間の日程で希望の事業所での研修を確保している。又、日々のケアの中でも、管理者は常にケアの基本や方針を話している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会と京都府認知症グループホーム協会に加入して研修参加や情報交換等を行なっている。法人内のあとの2箇所のグループホームとは、同種協議会という会議を持ち回りで行っており、各グループホームの課題等を話し合い、お互いのカラーを尊重した運営・質の向上に努めている。市管内のグループホームとの交流はこれからの課題である。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は管理者のヒアリング等も行なっていて、共に良質の事業所を目指す志のもとに協働している。管理者が相談出来る法人内の仕組みも整っている。現場では特に大きなストレスは今のところ感じていないとのことで、各自、リフレッシュ休暇等で自己の管理をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内の研修や会議で、自分達の仕事に誇りと自信を持って働けるような誘導や励ましがある。管理者、職員がそれぞれの立場で、向上心を持って働けるよう努めていて、勤務状況の厳しい時期にも全員で乗り切れる土壌が出来てきている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みや見学時に本人にお会いすることはあるが、その場で詳しく心情を聞いたり相談を受けたりすることはない。利用が決まってから、直接話す機会を作って、グループホームに引越すことへの不安感や困りごと等を受け止めるようにしている。	○ 相談から利用に至るまでの期間に、本人との関係作りは難しい面もあるが、出来るだけ、話を聞く機会を持ち、本人自身の想いを汲み取る努力をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時の見学や相談時には、ゆっくり話を聞く機会を持っている。利用が決定してからも出来るだけ、新たな暮らしへの不安感やグループホームへの期待、或いは家族の寂しさ等を受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談に来られた時、現状や考え等ゆっくり話を傾聴し、適切と思われるサービス利用の提案や受診の助言などの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が希望される時はお泊りの体験をしていただいている。また、デイサービス利用者がグループホーム利用を開始される時は、グループホームに落ち着かれるまでデイ利用の曜日には、馴染みのデイで過ごされる時間帯を作っている。或いは、家族の希望と協力の下、利用開始直後は、自宅とグループホームをいったり来たりされ、徐々にグループホームでの泊まりを長くされた方もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームケアの理念を基に、「共に創っていく家と暮らし」をポリシーとしているので、職員が主導ではないように常に心掛けている。家事全般は言うに及ばず、畑仕事等も学び合い、支え合う良好の関係になっている。日々の会話の中から、人生に関する蘊蓄ある言葉を頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一家族の方から、「離れていてもスタッフと一緒に介護していると思っているので、何でも相談してください」と言われた言葉に象徴されるように、常に家族はスタッフと一緒にという考えに基づき、どの家族とも利用者本人の人生を最良のものとして共に支えていける関係を築いていっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	9人の利用者とその家族関係については出来るだけ情報収集している。子供や甥等の関係、或いは子供同士の関係も理解し、利用者・家族どちらの想いも大切にしながら双方の良好な関係の構築を支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームのパンフレットにも明記しているように、これまでの暮らしの延長をサポートしたいと思っている。長年利用していた理髪店の方にカットしていただいたり、馴染みのDrに診ていただいたり、故郷のお墓参りの習慣等様々な支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の性格や感情が合う合わないをよく把握しているので、場面場面での衝突を出来るだけ回避するようにしている。が、9人の方々はとても支えあっておられる様に見受けられる。自己主張も出来て、お互いの立場や役割を心得ておられるので大きなトラブルには至っていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでの契約修了者は2名だが、共に死去されたので利用者との関係はなくなったが、家族の方から、「良くしていただいたので忘れられない。時々、話を聞いて欲しい」ということで、時折電話で話をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用開始時に訪問して面接し、本人や家族の意向を確認させていただいている。事前に訪問出来なかった場合は、利用開始日或いは開始直後にゆっくり話す機会を持ち、希望や意向を確認するよう努めている。日々のつぶやきや会話の中からも汲み取るようにしている。又、担当ケアマネや利用されていたサービス事業所からの情報も収集している。しかしまだまだ生活暦等は不十分な気がしているので、今後皆で取り組む課題である。常に本人を意識して考えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活暦や趣味等の聞き取りはしているが、一緒に生活を始めてみて、ほとんどの利用者に対し、不十分であると感じている。	○	開設からグループホームの運営については熟考し、この項目が最重点課題だと位置づけていたが、職員全員が意識的に取り組むことが出来ていなかった。家族からエピソードを聞いて、皆で共有することはあっても、まだまだ十分とは言えない現状である。センター方式の中から抜粋した様式を使用し、一人ひとりの歴史や人物像を再確認していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜勤帯の様子を的確に日勤帯へ申し送っているのもので、その日の心身状態は把握でき、また予測も出来る。一人ひとりの生活リズムも把握しているので、無理のないように1日が組み立てられるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者9名に職員6名が、1年間の期間で担当を決め、主に係われるようにしている。毎月の職員会議で、家族や本人・他職員や主治医から収集した意見等を話し合っ、計画作成者がまとめている。基本姿勢として、常に利用者本位ということは職員全員が理解しており、日頃から介護計画作成に結びつける視点でケアを行なっていて、家族からも機会あるごとに要望等を聞いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に計画の見直しは、3ヵ月ごとに行なっていて、毎月のケース検討の場で、モニタリングをしている。身体の変化や家族からの希望があった場合は、期間に係わらず見直しを行ない、担当者と計画作成担当者が話し合い、他の職員にも周知して新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの24時間・365日の生活を記入できる個別記録の書式にしている。ケース記録の上段に個別のケアプランを明記し、それに添った実践記録をしているが、これをよりの確なアセスメントにするために現在、試行的に、職員会議のケース検討後の見直し・修正した担当所見をケアプランと一緒に綴るようにした。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性とはいえないが、通院や個別の外出については必要に応じて支援している。お正月の外泊時に、「泊まりに帰って来て欲しいが、受け入れの家族が高齢で食事の世話が難儀」と聞いたので、他の家人が帰省して食事作りが出来るようになるまで食事を運んだこともあった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	将棋の好きな利用者のために、地域の小学生がボランティア活動をされたり、畑仕事を好まれる利用者と一緒に草引きをして下さる地域の方々もある。また、グループホーム利用で空き家になった自宅の片付けのため、地区の民生委員や住民の方々、行政の方達が協力してくださったこともある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のサービス事業所と連絡を取り合うことはあるが、具体的なサービス利用のためという事はない。もし今後、本人の意向や必要性があれば他のサービス事業所と相談していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の利用者の状況では、地域包括し塩酸ターに相談したり協働したりする事例はないが、今後、権利擁護等の必要性が出てくれば、相談・協働していきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用以前のかかりつけ医の受診を薦めている。そのかかりつけ医とグループホームが初めての時は、グループホーム事業の説明をさせていただき、理解を深めた上で適切な医療が受けられるようにしている。新規に受診する場合は、本人・家族に相談し、希望の医療機関を受診出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	2年間も一緒に暮していると、ややもすると馴れ馴れしい言葉遣いをしたり、プライドやプライバシーへの配慮を欠いたり損ねたりするような言動をしてしまいがちになるので、常に職員全員が意識して気をつけるようにしている。が、トイレ誘導の際など、周囲にさとされない言葉掛けには苦慮している。記録についても個人情報には十分気をつけるよう心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	今年度の方針の中の第1番目に、「自己決定の支援」を掲げているので、利用者の自己決定の場面に意識的に取り組んでいる。思いや希望を気兼ねなく出せるということは、グループホーム内の雰囲気がとても大事なので、職員も含めた環境作りを大切にしている。周囲に気兼ねをして合わせて暮しておられた利用者が、最近自分のペースの暮らし方をされているので職員はとても嬉しく思っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常に、「自己決定」「自分の暮らし」と言うことを念願において支援している。極力、一人ひとりの生活リズムに合わせて、希望をかなえられるよう支援している。お天気や体調に合わせて、各人が判断されたことを優先している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域から入居された方は、行きつけの利用・美容室に通っておられる。引越しのため遠方になられた方は新たに馴染みの美容室を決めて通っておられる。入所当初、遠方だが、家族が今までの美容室にご一緒された方もある。旅行に着ていく服や靴を自分で選んで買われる方もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備段階から食事の片付けまでの作業の中で、何人もの利用者に係わって頂いている。それぞれ、得て増えての作業があり、その過程過程で係わって利用者同士或いは職員と一緒に和やかに進めている。お米を研ぐ人、野菜の皮むきが上手な人、盛り付け上手、台拭きの係り、お箸を並べる人、てきぱきと洗い物をする人、残ったおかずにラップを掛ける人、様々な作業を楽しみながらされている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の内容を見て誰かが、「ビール飲みたい」と言い出されたら飲みたい方がビールを飲まれたり、買物の時に自分の好みのおやつや食べ物を買ったりされている。煙草を吸われる方はいないが、今後あったとしても約束(灰皿のある所)のある支援をしていく。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を基本にしている。体調や力に合わせ、リハビリパンツやパット(大小)、紙おむつ等、最適かつ快適な物を着用していただいている。紙おむつによるかぶれや痒みにも注意している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開設当時から夜間入浴の態勢をとっている。利用前に尋ねると全員が「夜、入ります」と答えられている。夏場は日中の畑仕事や散歩のあとに、シャワーを浴びられることもある。「ご飯を食べてから」とか「一番最後に」という希望にも添っている。日に何度も沸かしかえている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には、日中活動していただき、夜間は安眠をしていただきたいという支援であるが、休息や午睡は自由にされている。長時間の外出後や昨日の疲れが残っていると見受けられた時など休息されるよう支援している。朝もすっきりと自ら目覚められるまで休んでいただくこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みの作業等を知って、一日を生き生きと過ごしていただけるよう支援している。高校時代からお花を習っておられた方は、好みの枝振りの木や花を採りにいって見事に活かしてくださる。繕い物、調理、畑仕事、歌、ピアノ、雪かき等、役割や気晴らし事は暮らしの中の随所に見られる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで自らが働いて収入を得ておられた方の金銭に対する価値観や主婦であった方のお金に対する気持ちの持ち方を、職員はよく理解し、希望や力に応じて、日常の中で財布の所持や買物等の支援をしている。社会性の維という等観点からもお金への関心は持ち続けていただきたい。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日に何度も「散歩に行きたい」と言われる方と一緒に散歩したり、「裏山へ」「ちょっと外をグルッと回って来るわ」との希望にも応じている。買物やドライブ等、日常的に出かけていただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「生まれた家に行ってみたい」という長年の希望を実行した方がある。自力での歩行は困難な方だが、車で出かけ、山の中腹の生家まで辿り着いて、家人と再会された感激が写真の表情に残されている。また、年2回のお墓参りに職員が同行している方もいる。1泊旅行では、希望の京都市内観光も出来、思い出を作ることが出来た。家族と故郷へ旅行された方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵がとても上手な方が、家族の希望もあって、絵手紙を描いておられる。自分の気持ちを素直に綴って投函することで安心される。帰宅願望のある方は、自ら家族に電話を掛けられることで落ち着かれ、普段の生活のリズムに戻られる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設定せず、自由に来て頂いている。勤務終了後の19時20時に立ち寄られる家族の方もあられし、近所の知人や親戚が訪ねて来られることもある。今までの暮らしの継続という観点で、知人との行き来をケアプランとしている方もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束はあり得ないものとして捉えている。マニュアルは事務所の本立てに置いてあり、常に読めるようになっている。自らが立ち上がれないソファー等も使用せず、適度な固さや高さの家具を選んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の理念もそうであるが、グループホームの職員全員が、鍵を掛けることは全く思っておらず、利用者全員が建物のどこからでも自由に出入りされている。どこの出入り場所にも外履きのサンダルが置いてある。自室から掃きだしになっている部屋の方へは、転倒等に注意している。おおよそ21時以降から朝7時過ぎまでは、外部からの安全確保のために施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの生活パターンを把握しているが、日中自由に入出入りされている方が多いので常に気配りはしている。日中、自室で休まれている方や夜間の安眠を妨げないように様子の把握と安全への配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの持ち物の中で、リスクを考えたらキリのないものは多いが、その方の生活に必要なものや長年の愛用で使用方法を理解されているものは、職員がさりげなく気を配りながら使っていただいている。バリカン、安全かみそり、鉋、裁縫道具、電気アンカ、扇風機等について、保管場所や使用の場所など職員が目配りさせていただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関しては、ひと通りのマニュアルはあるが、職員が夜間帯の一人の時でも、的確に行動できるか戸惑いがある。危険回避、防止について職員一人ひとりが十分自覚し、普段からシュミレーションするよう訓練している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年度の自己評価・外部評価でもこの項目は、改善点にあがっている。1年間の期間があつたにもかかわらず、いまだクリア出来ていない事ばかりである。新規採用の職員への訓練が目下の課題である。	○	利用者の急変に対し、初期対応は出来ると思えるが、すべての職員が応急手当は難しいとの不安感を持っている。現場では予期しないことが起きることが多いので、いかなる場合も冷静に行動し、的確な処置が出来るよう、命の重みを考えると共に不断の訓練が必要である。今年度も引き続き、消防署と協力して救急救命等是非学んで生きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	立地条件や運営条件を考えると、特に夜間帯はグループホーム職員一人が9人の命と建物の安全を守っていることになるので、開設当時から常に危機管理の意識を持って訓練を行ってきた。2~3ヶ月おきに、訓練担当者を決め、特に夜間想定避難訓練を自主的に行なっている。が、その都度、ミスがあり、まだまだ完ぺきな訓練内容とは言えない。	○	運営推進会議でも議題に上げているように、地域との協働による避難訓練を再度行いたいと思っている。以前に1回したのみなので、マニュアル作りからして是非、自衛消防団や地域の方々の力と共に訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調変化やADLの低下に伴い予測されるリスクを家族に話し、本人の希望や家族の意向、事業所側の考えを話し合ったうえで、暮らし方の合意点を見出している。(低温やけど、転倒、誤嚥、所在不明等)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、利用者一人ひとりの顔色、声の調子、体温、目の潤み、各所の痛み、爪の状態、動作の緩慢さ、食欲等において、普段と違う点を発見することを意識的に行なっている。入浴の際も、さりげなく皮膚の状態(掻き傷・湿疹・打撲等)を観察している。気付いた時点で役責者に報告・相談したり、出勤職員間で共有し、対策を検討する、また、伝達ノートに記入し、全員への周知を図る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、日々のケアの中で服薬は大切な要素であることを理解しており、一人ひとりの身体状況に合わせて効能や用量を見定めている。通院時には、主治医と細かに相談し、身体状況に合わせた用量の検討等をしている。副作用については、主治医や「薬の手引書」等で確認している。特に新たな服薬開始時には、様態の変化に留意している。	○	全ての職員が、一人ひとりの服薬の目的と内容とをつきと答えられる自信がない。病状と薬の変更については、都度話し合い、情報の共有はしているが、外用薬より内服薬の細かな副作用まで周知しているとは言い難い。本来周知しているべきことなので、意識的に身につけていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段の生活の中で、排便に関しては細かな注意を払っている。チェック表のみならず、排便コントロールのことは常に情報交換し、本人にも確認したりしてスムーズな排便に向けて努力している。牛乳を飲んでいただいたり、繊維質の野菜や海藻類を調理に取り入れたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアと健康維持の関係について、職員はよく理解しており、ほとんどの利用者に対し、義歯の手入れや口腔内の清潔保持を支援している。食後や起床時には、声掛けをせず、一人ひとりの状況に合った口腔ケアをしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事をチェックしている。夏場の水分摂取や発熱時、運動量の多かった日、前の食事の摂取量等、常に意識して、1日の栄養量をトータル的に見ている。1日30品目を目指せたらと思っている。たまに、栄養士の助言をもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがあり、普段から生活全般に配慮して取り組んでいる。集団生活であること、高齢であること等を常に意識していて、職員の方が感染源にならないよう気をつけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	年間を通じて食中毒には注意している。調理器具も毎日、漂白・除菌したり、台所のタオルや布巾も多くストックして小まめに交換している。又、食材は賞味期限をチェックしたり、鮮度の必要なものは早めに使用したり、生産地にも配慮したりして、安全な食事を提供できるよう職員全員が気を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内の立地条件からすると、分かりにくい玄関になっている。昨年度(初回)の外部評価でも、この項目は改善点とされたので意識的に取り組み、北向きの玄関なので日照時間が短くても咲く草花を植えたり、屋根的な看板を掲げたりして雰囲気作りを行なった。グループホームの入り口を示すプレートを設置も行なった。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の花を絶やさず活けたり、手芸作品を飾ったりして居心地良くしている。強い日当たりもカーテンで調整し、対面式の台所からは調理の音や美味しそうな匂いが漂い、生活を感じることが出来る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の場所だけでなく、窓辺のソファで外を眺めながら過ごしたり、少し広い空間に置いてあるソファで談笑したり、2~3人でくつろげる場所が何箇所かあって、その時々、思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使い慣れた馴染みの家具や品々を持って来て頂くことをお願いしているので、一人ひとり個性ある部屋作りをされている。まだまだ持ってきていただいても良いと思われるが、今のところご自分の部屋として居心地よく過ごされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時をはじめ、1日に何度か換気をしている。風通しの良い場所なので、出来るだけ外気を取り入れている。が、風を嫌がられる方が何人かおられるため、状況を見ながら開け閉めしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面は段差がないように配慮した設計になっている。手すりに関しては、「必要な方に、必要な時、必要な場所に」という方針なので、トイレとお風呂以外は、必要な方のために設置してある。自立支援が基本方針なので、高さ調整できる洗面所をはじめ、身体機能に配慮した工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失見当識の進んだ方がスムーズにトイレだと認識できるように漢字で表示したり、「のれん」を付けたり、自室前に目印を付けたりして、混乱を防ぐよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲は、広い空き地になっており、そこを利用した畑作りをしている。外仕事の好きな利用者の方々が季節ごとの野菜や草花を植え、手入れや収穫を楽しんでおられる。季節によっては、畑仕事を日課にされている利用者もおられる。また、ベランダは、自由に出入りでき、洗濯物や布団を干したりして活動的に使用されている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の	
		②利用者の2/3くらいの	
		③利用者の1/3くらいの	
		④ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある	
		②数日に1回程度ある	
		③たまにある	
		④ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が	
		②利用者の2/3くらいが	
		③利用者の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が	
		②利用者の2/3くらいが	
		③利用者の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が	
		②利用者の2/3くらいが	
		③利用者の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が	
		②利用者の2/3くらいが	
		③利用者の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が	
		②利用者の2/3くらいが	
		③利用者の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と	
		②家族の2/3くらいと	
		③家族の1/3くらいと	
		④ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①	ほぼ毎日のように
		②	数日に1回程度
		③	たまに
		④	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①	大いに増えている
		②	少しずつ増えている
		③	あまり増えていない
		④	全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①	ほぼ全ての職員が
		②	職員の2/3くらいが
		③	職員の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	ほぼ全ての家族等が
		②	家族等の2/3くらいが
		③	家族等の1/3くらいが
		④	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)